

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

| | |
|-----------|---|
| 会 議 名 | 平成26年度第1回 瀬戸・高松広域定住自立圏推進委員会 |
| 開催日時 | 平成26年11月17日（月） 午後1時30分～午後2時35分 |
| 開催場所 | 高松市役所 11階114会議室 |
| 議 題 | (1)平成26年度における瀬戸・高松広域定住自立圏の取組状況について (2)平成27年度に向けての瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンについて (3)地方中枢拠点都市圏への発展的移行について (4)その他 |
| 公開の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 上記理由 | |
| 出席委員 | 会長 大西秀人、副会長 中村順一、大山茂樹委員、八木弘委員、藤井秀城委員、橋本守委員、三枝邦彦委員、川本貴也委員、森口久士委員、筒井敏行委員、原田照治委員、濱中満委員、蓬清二委員、藤井賢委員、鈴木義明委員 |
| 傍 聴 者 | 0 人 (定員若干名) |
| 担当課および連絡先 | 政策課 (839-2135) |

会議経過および会議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

(1)平成26年度における瀬戸・高松広域定住自立圏の取組状況について

平成26年度における取組状況について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。

(委員)

取組における評価について、中心市と連携市町の評価の差が大きく感じる。効果が合うような評価のやり方を検討していく必要がある。

(事務局)

取組については、まだ住民に浸透していない点、成果が出ていない点があげられ、評価に差が出ていると考えられる。今後、中心市と連携市町の担当課において課題を明らかにし、検討していきたい。

(委員)

例えばジオサイトについて、さぬき市と連携して取組を行ったが、中心市とも連携して、分かりやすい事業に取り組むことにより、住民にも取組が浸透しやすくなると思われる。

会議経過および会議結果

(会長)

住民に良かったと思われる、分かりやすい事業を連携市町からも提案いただくとともに、定住自立圏をPRできる事業を検討していきたい。

また、評価の理由を検証し、今後効果が上がるように事業の検討をしていきたい。

(2) 平成27年度に向けての瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンについて

平成27年度に向けての共生ビジョンについて、事務局から説明し、次のとおり意見があった。

(委員)

ビジョンの取組事業について、中心市以外の連携市町から提案していくのは、今後も必要だと考える。

定住自立圏は中心市と連携市町の1対1の協定によるものではあるが、構成している連携市町同志で協議し、中心市へ提案を行い、採用可能なものは今後とも積極的に取り組んでいきたい。

議題2については、了承された。

(3) 地方中枢拠点都市圏への発展的移行について

国は人口減少・少子高齢化社会の到来下においても、基礎的自治体が安定的な住民サービスを提供できるよう、地方公共団体間の柔軟な連携を可能とする新たな広域連携の仕組の一つとして、地方中枢拠点都市を中心とした連携を示している。

瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョンが27年度を終期としていることから、本圏域においても、28年度から地方中枢拠点都市圏への発展的移行を図りたい旨事務局から説明し、関係市町と今後取り組んでいくことについて、了承された。

(4) その他

(事務局)

今後のスケジュールの説明。

(委員)

綾川町としては、農業分野の活性化を検討しており、近隣の町は観光の分野に力を入れる等、独自の取組もいろいろと進めているところである。

(会長)

それぞれの市町で独自の取組を行っていくとともに、圏域全体としても高め合い、協力し合ってきたい。

以上をもって本日の会議を終了することとした。